



2024年6月28日 発表

# 中学生の職業観に関する調査

## 株式会社アイDEM

〒160-0022 東京都新宿区新宿1-4-10 アイDEM本社ビル

お問い合わせ

広報担当 / 望月・栗木

調査担当 / 小杉・岸川

電話 03-5269-8780

[kouhousitu@aidem.co.jp](mailto:kouhousitu@aidem.co.jp)

# 目次

調査概要	・・・・・・・・	p . 3
1 学校生活の充実度	・・・・・・・・	p . 4
2 親の働く姿を見たことがあるか	・・・・・・・・	p . 5
3 信用できる情報源	・・・・・・・・	p . 6
4 将来働くことは「楽しみ」か	・・・・・・・・	p . 7
5 将来働くことは「かつこいい」か	・・・・・・・・	p . 8
6 将来働くことは「自分ならできる」と思うか	・・・・・・・・	p . 9
7 「早く働きたい」と思うか	・・・・・・・・	p . 10
8 将来働くことを「面倒くさそう」と思うか	・・・・・・・・	p . 11
9 将来働くことを「大変そう」と思うか	・・・・・・・・	p . 12
10 将来働くようになったら期待すること	・・・・・・・・	p . 13
11 将来働くようになったら不安なこと	・・・・・・・・	p . 14
12 将来やりたい仕事	・・・・・・・・	p . 15
13 「将来やりたい仕事」をしている人と実際に話をしたことがあるか	・・・・・・・・	p . 16
14 将来やりたい仕事について知りたいこと	・・・・・・・・	p . 17
15 「キャリアパスポート」の認知度	・・・・・・・・	p . 18
16 「キャリアパスポート」をどう思うか	・・・・・・・・	p . 19
17 将来役に立つと思う教科	・・・・・・・・	p . 20
18 将来の仕事につながる習い事	・・・・・・・・	p . 21

# 調査概要

**調査目的** 中学生の職業観について調査する

**調査対象** 中学1年生から3年生までの男女

**調査方法** スマートフォン調査

**調査期間** 2024年5月10日～15日

**有効回答** 582名

## 回答者内訳

学年と性別	計		男子		女子	
	n	%	n	%	n	%
中学1年生	176	30.2	88	15.1	88	15.1
中学2年生	201	34.5	100	17.2	101	17.4
中学3年生	205	35.2	101	17.4	104	17.9
計	582	100.0	289	49.7	293	50.4

学校種別	n	%
公立	415	71.3
私立	142	24.4
国立	25	4.3
計	582	100.0

父母の就労状況	n	%
父親または母親のみ働いている	155	26.6
父親・母親ともに働いている	417	71.6
その他	10	1.7
計	582	100.0

居住地	n	%
北海道・東北地方	49	8.4
関東地方	252	43.3
中部地方	107	18.4
近畿地方	94	16.2
中国・四国地方	43	7.4
九州地方	37	6.4
計	582	100.0

- 本調査は回答割合の表示において小数点以下第2位を四捨五入しているため、結果が100.0%にならない場合がある。
- 「平均回答個数」とは、複数回答形式の設問において各回答者が回答した選択肢の個数の平均を示す。

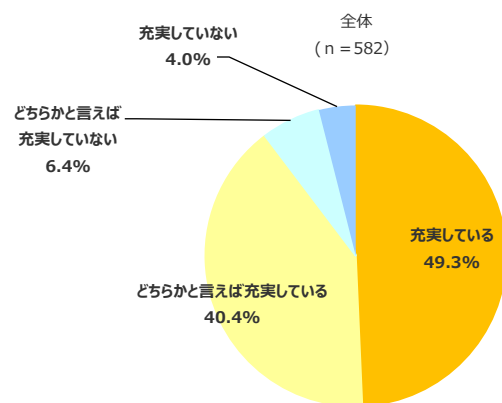
# 学校生活の充実度

中学生に、学校生活の充実度を聞いたところ、「充実している」49.3%、「どちらかと言えば充実している」40.4%となり、学校生活が充実している者が89.7%に上った（図1.1）。

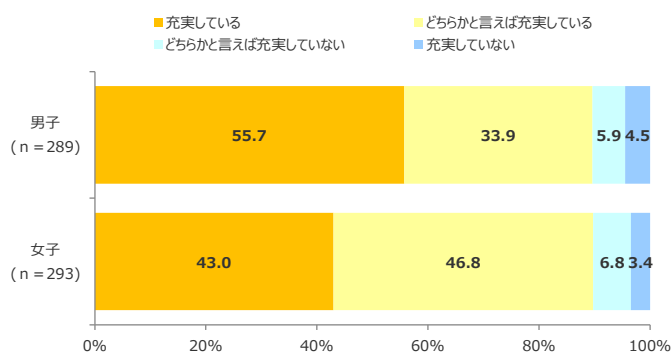
性別でみると、「充実している」の回答割合は、男子55.7%、女性43.0%となり、男子の方がより強く充実感を感じているようだ（図1.2）。

学年別でみると、「充実している」の回答割合は中学3年生でやや低くなっているが、「充実している」と「どちらかと言えば充実している」を合わせた「充実している・計」はどの学年も9割前後となっており、学年で大きな違いは見られない（図1.3）。

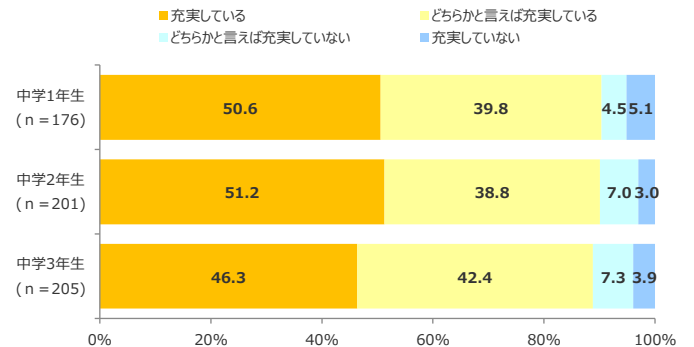
【図1.1】 学校生活の充実度



【図1.2】 学校生活の充実度：性別



【図1.3】 学校生活の充実度：学年別



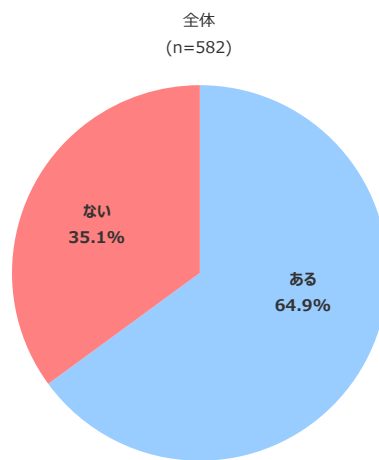
## 2

# 親の働く姿を見たことがあるか

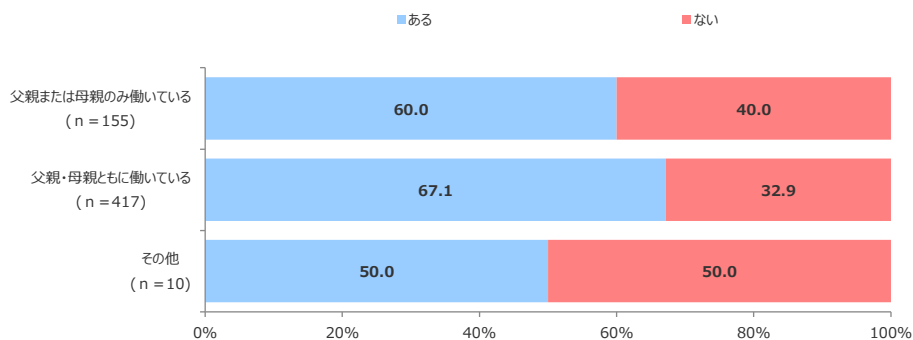
中学生に、親の働く姿を見たことがあるかを聞くと、「見たことがある」は64.9%、「見たことはない」は35.1%だった（図2.1）。

親の就業状況別にみると、「父親・母親ともに働いている」共働き家庭の者では、「見たことがある」は67.1%と他の者より高くなり、親の働く姿を目にする機会が多いようだ（図2.2）。

【図2.1】親の働く姿を見たことがあるか



【図2.2】親の働く姿を見たことがあるか：親の就業状況別

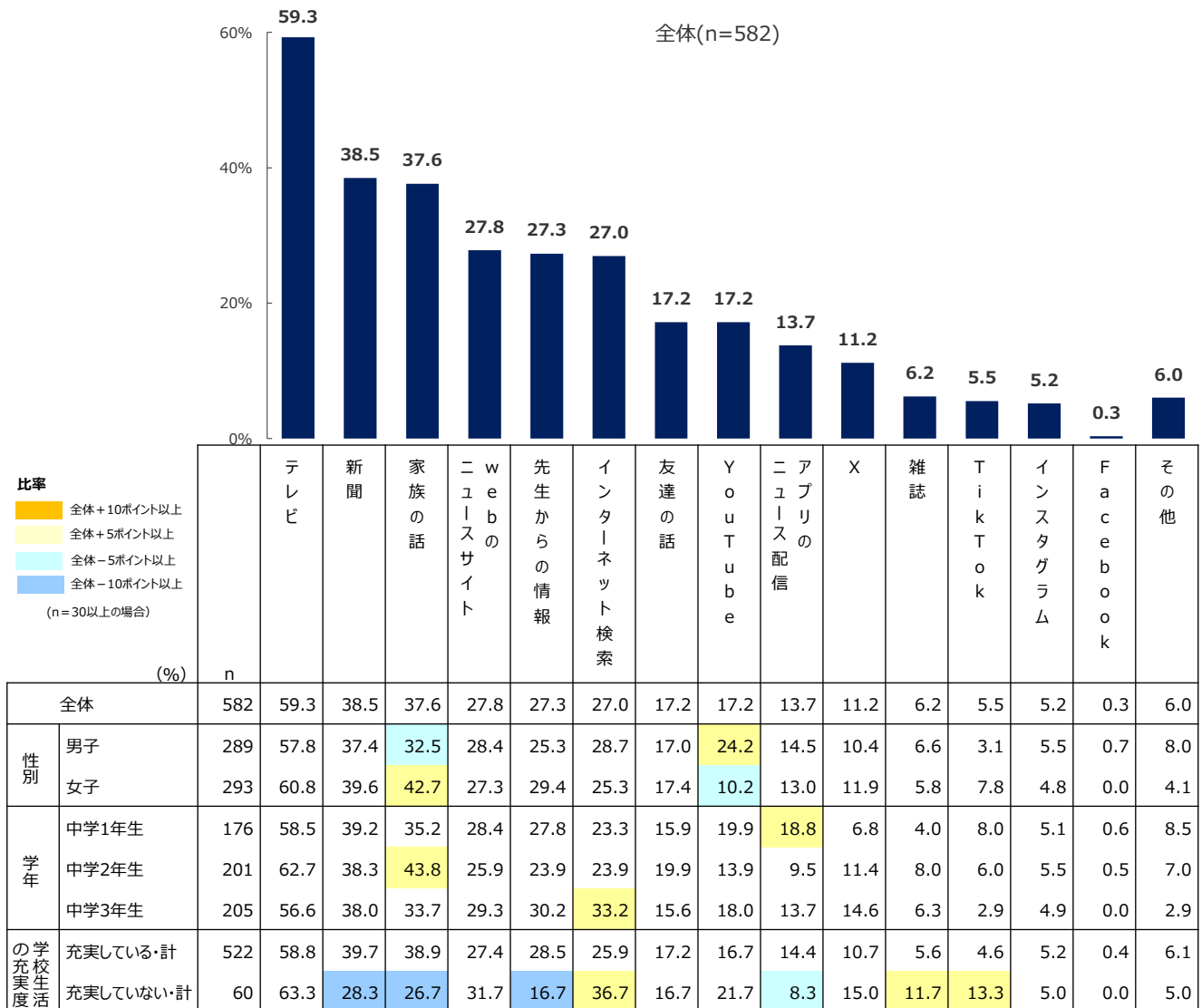


# 3

## 信用できる情報源

中学生に、信用できる情報源の上位3つを聞いた。最も回答を集めたのは「テレビ」で59.3%だった。次いで、「新聞」38.5%、「家族の話」37.6%、「webのニュースサイト」27.8%、「先生からの情報」27.3%、「インターネット検索」27.0%となっている（図3）。「テレビ」が次点を20ポイント以上引き離しており、中学生にとって「テレビ」の影響力が強いことがうかがえる。

【図3】信用できる情報源（複数回答）



# 4

## 将来働くことは「楽しみ」か

中学生に、将来働くことについて「楽しみ」と思うかを聞いた。結果は、「楽しみ」が40.9%、「どちらかと言えば楽しみ」が40.7%で、合わせて81.6%が「楽しみ・計（以下同）」と回答した（図4.1）。

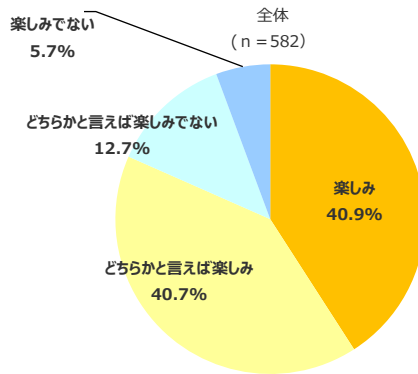
性別でみると、「楽しみ・計」は男子が84.8%なのに対して、女子は78.5%となり、男子の方が楽しみと感じている割合が高い（図4.2）。

学年別でみると、学年が上がるにつれて「楽しみ」と回答した割合が増えている（図4.3）。

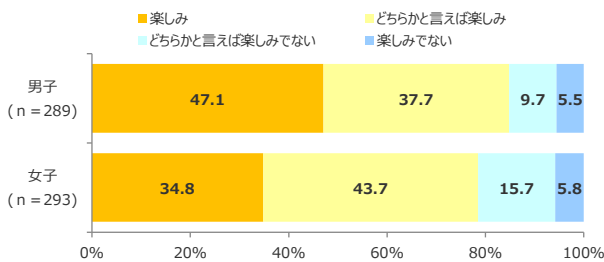
学校生活の充実度別でみると、「楽しみ・計」は、学校生活が「充実している・計」の者では82.6%、「充実していない・計」の者では73.4%となり、約10ポイントの差がついている（図4.4）。

「2 親の働く姿を見たことがあるか」との関係では、「楽しみ・計」は、親の働く姿を見たことが「ある」者では85.7%、見たことが「ない」者では74.0%となり、10ポイント以上の差がついていた（図4.5）。親の働く様子や充実感が子供にも伝わり、ポジティブな将来イメージを抱かせていることがうかがえる。

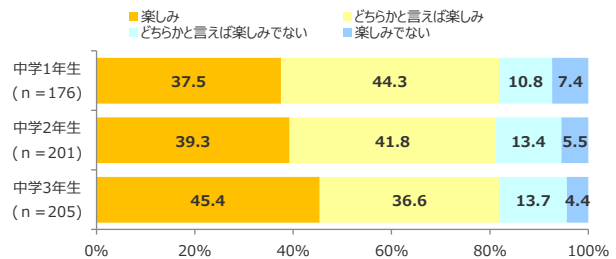
【図4.1】 将来働くことを「楽しみ」に思うか



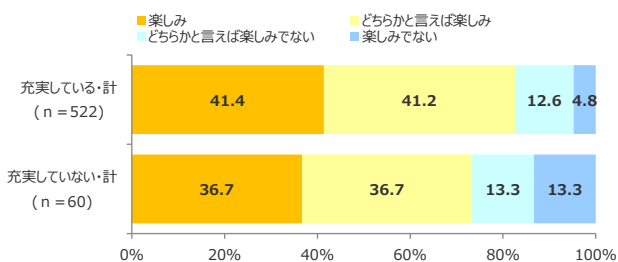
【図4.2】 将来働くことを「楽しみ」に思うか：性別



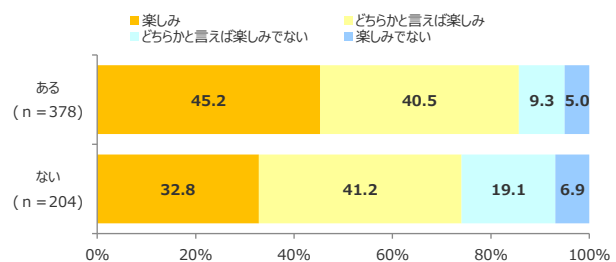
【図4.3】 将来働くことを「楽しみ」に思うか：学年別



【図4.4】 将来働くことを「楽しみ」に思うか：学校生活の充実度別



【図4.5】 将来働くことを「楽しみ」に思うか：親の働く姿を見たことがあるか別



# 将来働くことは「カッコいい」か

中学生に、将来働くことについて「カッコいい」と思うかを聞いた。結果は、「カッコいい」が34.5%、「どちらかと言えばカッコいい」が37.3%で、合わせて71.8%が「カッコいい・計（以下同）」と回答した（図5.1）。

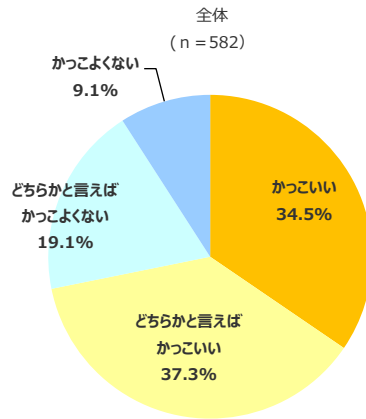
性別でみると、「カッコいい・計」は男子は73.7%なのに対して、女子は70.0%となり、男子の方がカッコいいと感じている割合が若干高い（図5.2）。

学年別でみると、学年が上がるにつれて「カッコいい・計」の割合が増えている（図5.3）。

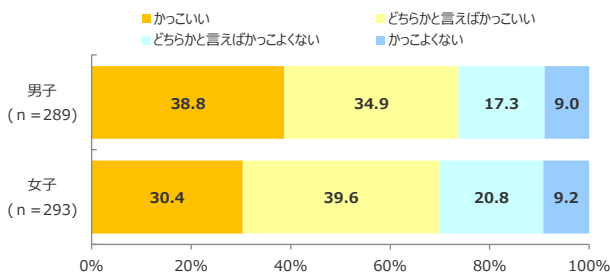
学校生活の充実度別でみると、「カッコいい・計」は、学校生活が「充実している・計」の者では73.2%、「充実していない・計」の者では60.0%となり、10ポイント以上の差がついている（図5.4）。

「2 親の働く姿を見たことがあるか」との関係では、「カッコいい・計」は、親の働く姿を見たことが「ある」者では76.4%、見たことが「ない」者では63.2%となり、13.2ポイントの差がついている（図5.5）。親の働く様子や充実感が子供に伝わり、親の働く姿に「カッコよさ」を感じているのかもしれない。

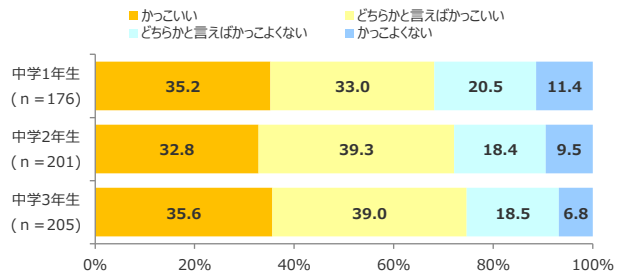
【図5.1】 将来働くことを「カッコいい」と思うか



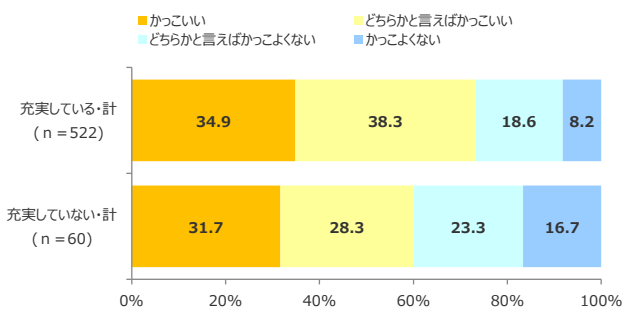
【図5.2】 将来働くことを「カッコいい」と思うか：性別



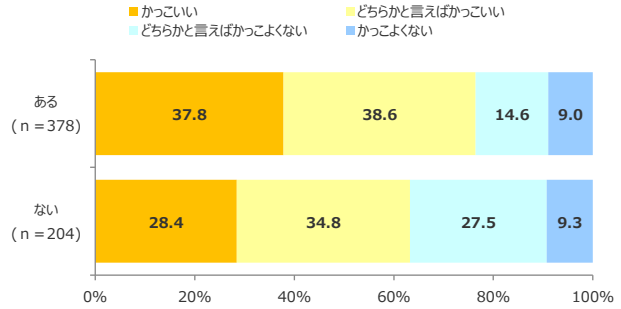
【図5.3】 将来働くことを「カッコいい」と思うか：学年別



【図5.4】 将来働くことを「カッコいい」と思うか：学校生活の充実度別



【図5.5】 将来働くことを「カッコいい」と思うか：親の働く姿を見たことがあるか別





# 6

## 将来働くことは「自分ならできると思うか

中学生に、将来働くことについて「自分ならできると思うか」を聞いた。結果は、「自分ならできると思う」が30.2%、「どちらかと言えば自分ならできると思う」が40.0%で、合わせて70.2%が「自分ならできると思う・計（以下同）」と回答した（図6.1）。

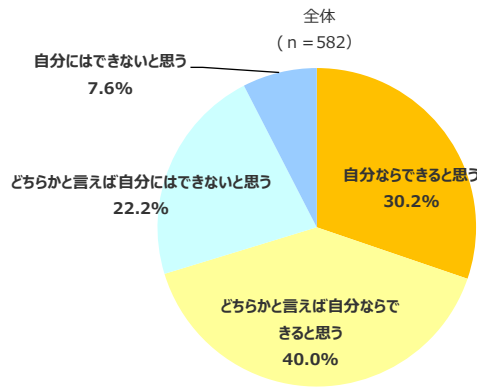
性別でみると、「自分ならできると思う・計」は男子が77.9%なのに対して、女子は62.8%となり、15.1ポイントの差があった。男子の方が自信や自己効力感を強く持っていることがうかがえる（図6.2）。

学年別でみると、中学3年生の「自分ならできると思う・計」の割合が71.7%と最も高くなっている（図6.3）。

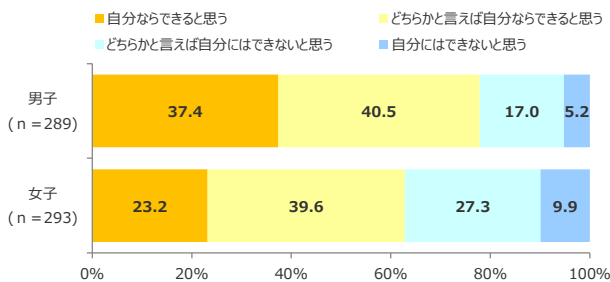
学校生活の充実度別でみると、「自分ならできると思う・計」は、学校生活が「充実している・計」の者では72.0%、「充実していない・計」の者では55.0%となり、17.0ポイントの差がついている（図6.4）。

「2 親の働く姿を見たことがあるか」との関係では、親の働く姿を見たことが「ある」者と「ない」者では、大きな差は見られなかった（図6.5）。

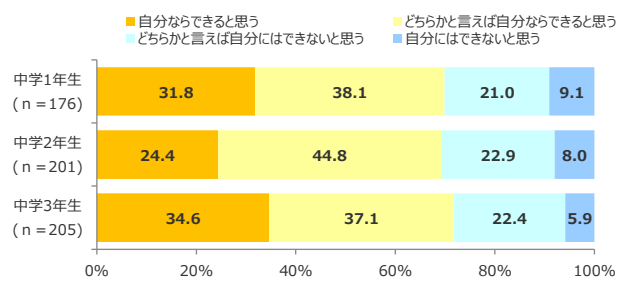
【図6.1】 将来働くことは「自分ならできると思うか



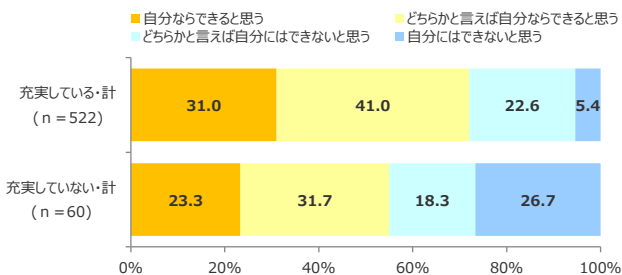
【図6.2】 将来働くことは「自分ならできると思うか：性別



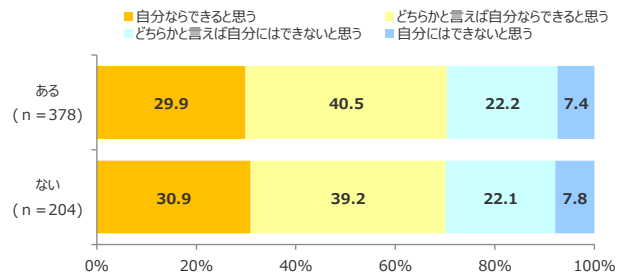
【図6.3】 将来働くことは「自分ならできると思うか：学年別



【図6.4】 将来働くことは「自分ならできると思うか：学校生活の充実度別



【図6.5】 将来働くことは「自分ならできると思うか：親の働く姿を見たことがあるか別



# 「早く働きたい」と思うか

中学生に、「早く働きたい」と思うかを聞いた。結果は、「早く働きたい」が38.8%、「どちらかと言えば早く働きたい」が21.3%で、合わせて60.1%が「早く働きたい・計（以下同）」と回答した（図7.1）。

性別でみると、「早く働きたい・計」は男子が62.3%、女子は58.0%となり、男子の方が早く社会に出たい傾向がある（図7.2）。

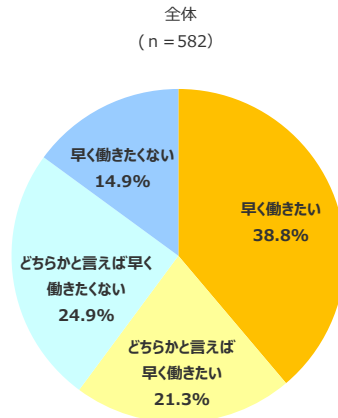
学年別でみると、学年が上がるにつれて「早く働きたい・計」の割合は若干高まるが、そこまで大きな差にはなっていない（図7.3）。

学校生活の充実度別でみると、「早く働きたい・計」は、学校生活が「充実している・計」の者では60.7%で、「充実していない・計」の者の55.0%より5.7ポイント高くなっていた（図7.4）。

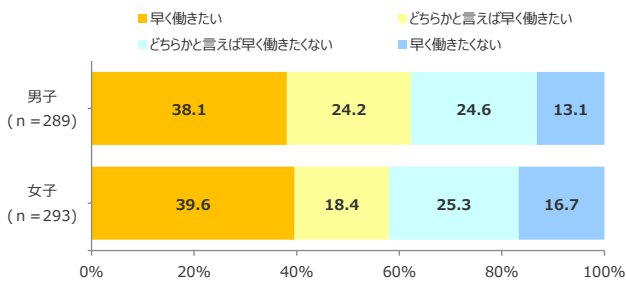
（図6.4）。

「2 親の働く姿を見たことがあるか」との関係では、親の働く姿を見たことが「ある」者では、「早く働きたい」が43.4%と親の働く姿を見たことが「ない」者より13.0ポイント高くなっており、働くことに期待感があることがうかがえる（図7.5）。

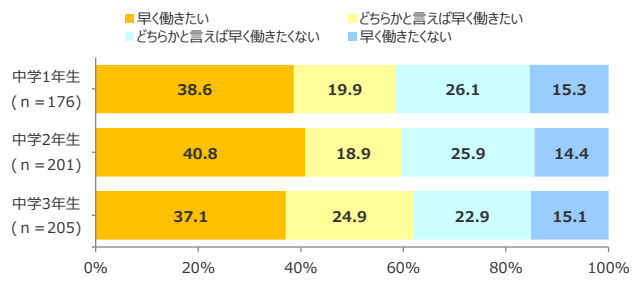
【図7.1】「早く働きたい」と思うか



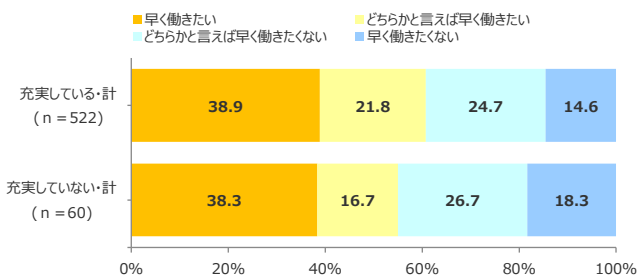
【図7.2】「早く働きたい」と思うか：性別



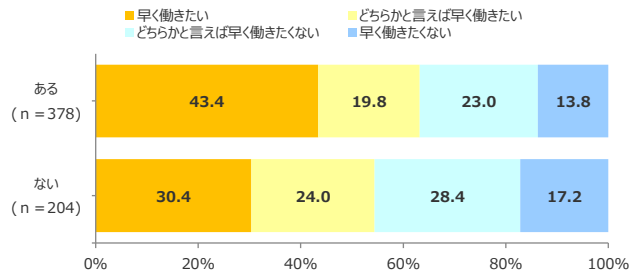
【図7.3】「早く働きたい」と思うか：学年別



【図7.4】「早く働きたい」と思うか：学校生活の充実度別



【図7.5】「早く働きたい」と思うか：親の働く姿を見たことがあるか別



# 将来働くことを「面倒くさそう」と思うか

中学生に、将来働くことについて「面倒くさそう」と思うかを聞いた。結果は、「面倒くさそう」が34.5%、「どちらかと言えば面倒くさそう」が36.3%で、合わせて70.8%が「面倒くさそう・計（以下同）」と回答した（図8.1）

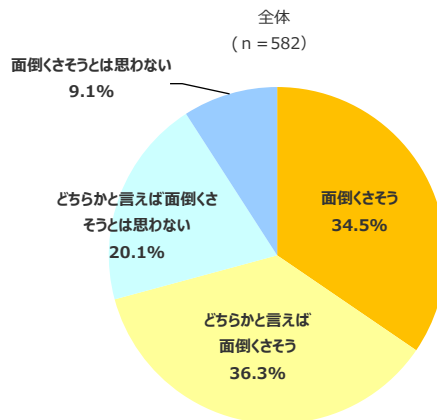
性別でみると、「面倒くさそう」は男子が31.8%なのに対して、女子は37.2%となり、女子の方がより面倒くささを感じている（図8.2）。

学年別でみると、中学2年生では「面倒くさそう・計」が他の学年よりも低い（図8.3）。

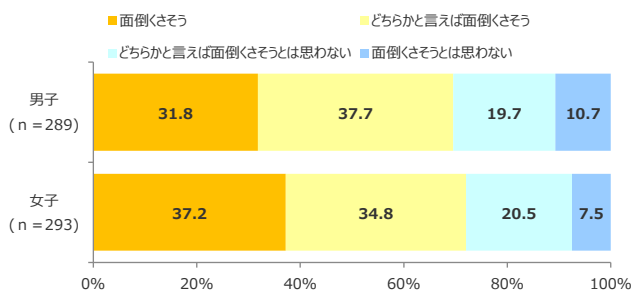
学校生活の充実度別でみると、「面倒くさそう・計」は、学校生活が「充実していない・計」の者では75.0%となり、「充実している・計」の者より若干高くなっている（図8.4）。

「2 親の働く姿を見たことがあるか」との関係では、親の働く姿を見たことが「ある」者と「ない」者では大きな差は見られなかった（図8.5）。

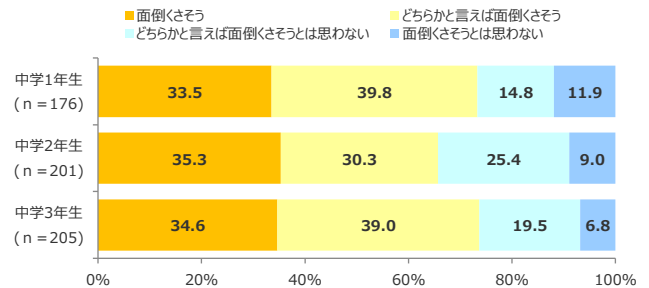
【図8.1】 将来働くことを「面倒くさそう」と思うか



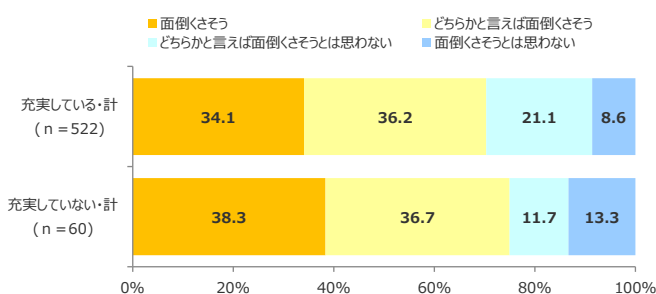
【図8.2】 将来働くことを「面倒くさそう」と思うか：性別



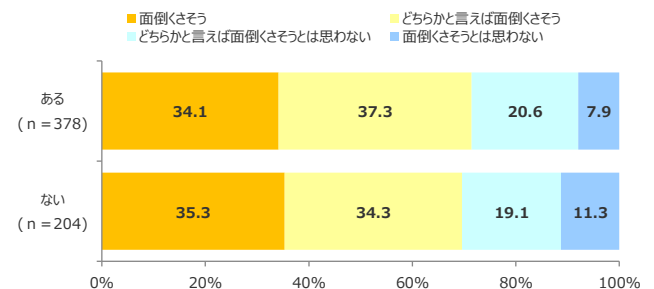
【図8.3】 将来働くことを「面倒くさそう」と思うか：学年別



【図8.4】 将来働くことを「面倒くさそう」と思うか：学校生活の充実度別



【図8.5】 将来働くことを「面倒くさそう」と思うか：親の働く姿を見たことがあるか別



# 将来働くことを「大変そう」と思うか

中学生に、将来働くことについて「大変そう」と思うかを聞いた。結果は、「大変そう」が60.5%、「どちらかと言えば大変そう」が30.1%で、合わせて90.6%が「大変そう・計（以下同）」と回答した（図9.1）。

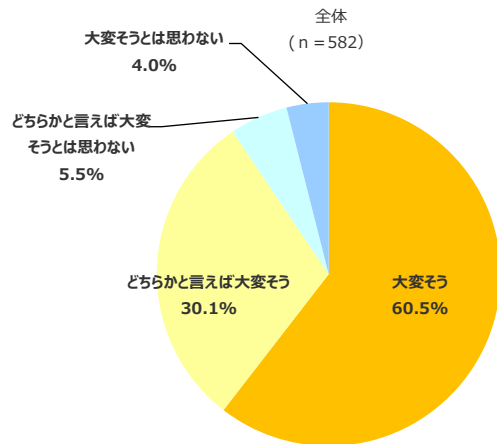
性別でみると、「大変そう」は女子が62.5%と、男子の58.5%を上回っており、女子の方がより強く感じている（図9.2）。

学年別でみると、学年が上がるにつれ「大変そう・計」の割合も高くなっていく（図9.3）。

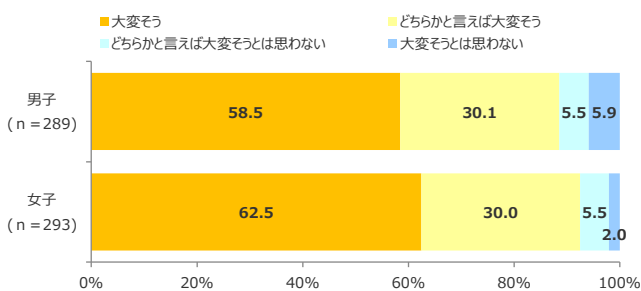
学校生活の充実度別でみると、「大変そう・計」は、学校生活が「充実している・計」の者では91.4%となり、「充実していない・計」の者の83.4%より高くなった（図9.4）。

「2 親の働く姿を見たことがあるか」との関係では、親の働く姿を見たことが「ある」者の方が、「ない」者に比べて「大変そう・計」の割合が若干高い（図9.5）。

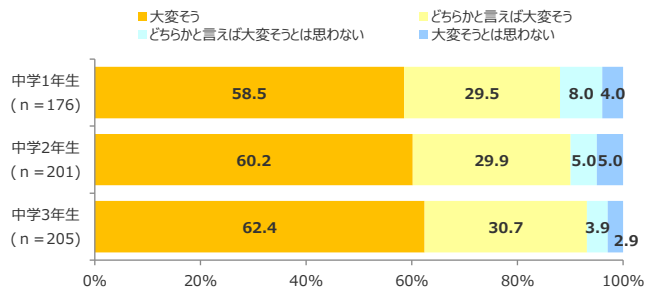
【図9.1】 将来働くことを「大変そう」と思うか



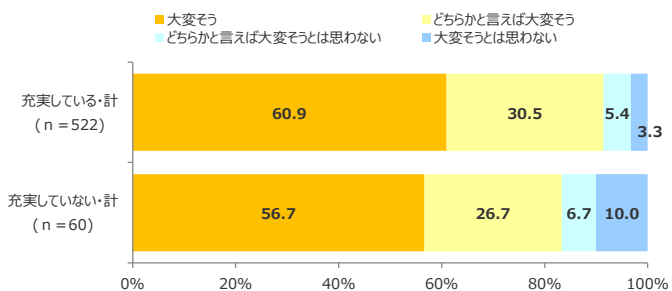
【図9.2】 将来働くことを「大変そう」と思うか：性別



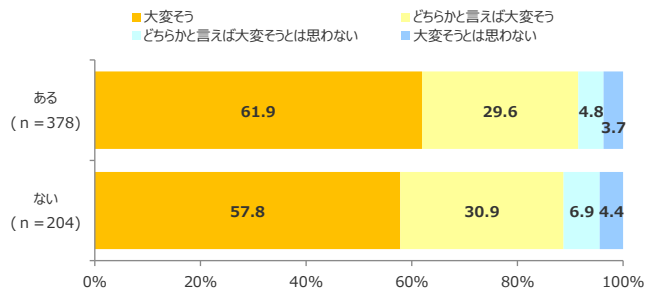
【図9.3】 将来働くことを「大変そう」と思うか：学年別



【図9.4】 将来働くことを「大変そう」と思うか：学校生活の充実度別



【図9.5】 将来働くことを「大変そう」と思うか：親の働く姿を見たことがあるか別



# 将来働くようになったら期待すること

中学生に、将来働くようになったら、どんなことに期待するかを3つまで聞いた。

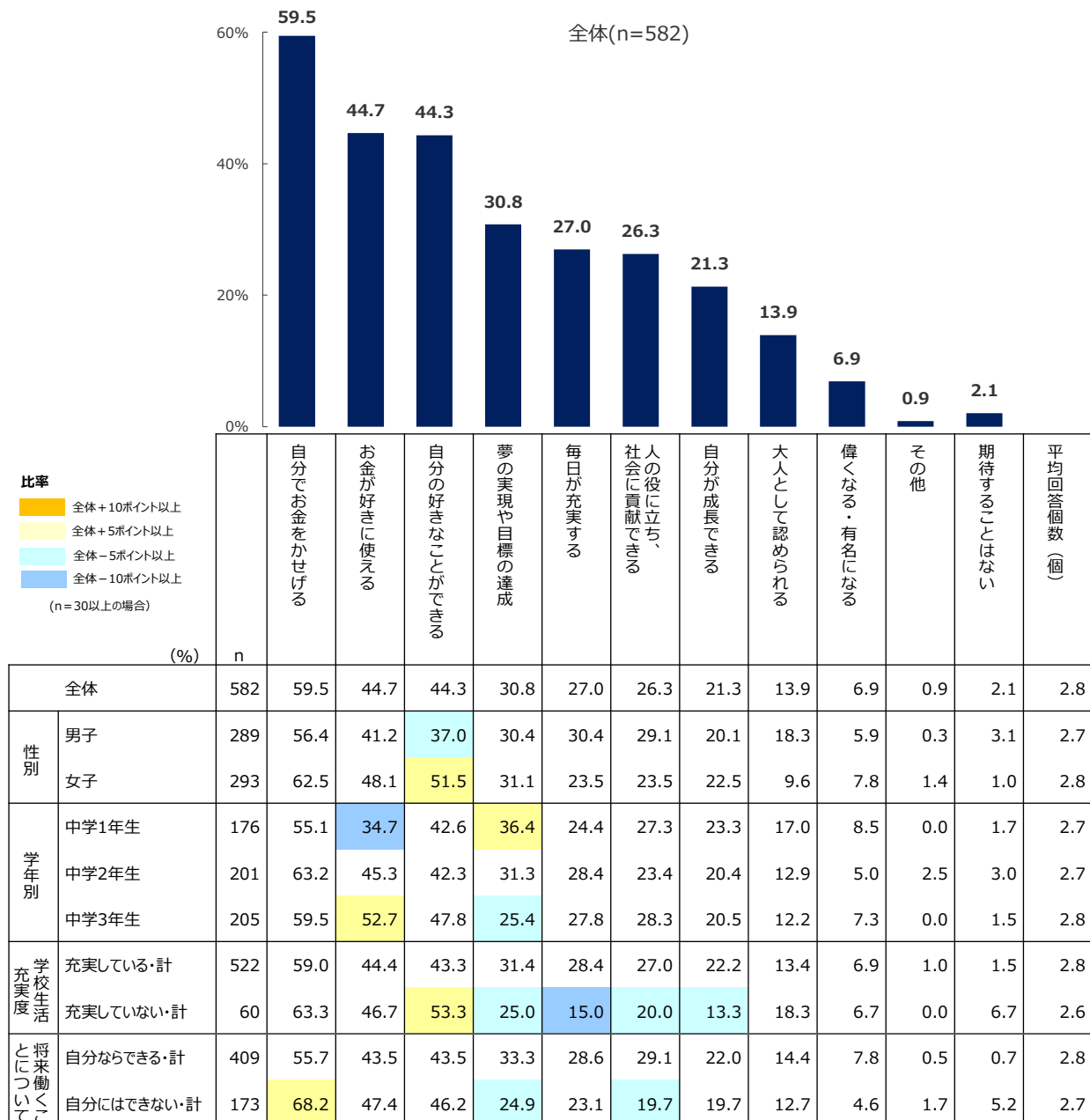
全体で最も多かったのは「自分でお金をかせげる」59.5%、次いで「お金が好きに使える」44.7%、「自分の好きなことができる」44.3%、「夢の実現や目標の達成」30.8%となった。

性別で見ると、「自分の好きなことができる」では女子が51.5%と、男子の37.0%を大きく上回っている。

学年別で見ると、学年が上がるにつれ「お金が好きに使える」の回答割合が高くなっていく。反対に、「夢の実現や目標の達成」は、学年が上がるほど低くなっていく。

「1 学校生活の充実度」及び「6 将来働くことは『自分ならできる』と思うか」との関係を見ると、「充実している・計」あるいは「自分ならできる・計」と回答した者では、そうでない者より、「夢の実現や目標の達成」「毎日が充実する」「人の役に立ち、社会に貢献できる」「自分が成長できる」の回答割合が高くなっているのが特徴的である(図10)。

【図10】将来働くようになったら期待すること（複数回答）



# 将来働くようになったら不安なこと

中学生に、将来働くようになったら、どんなことが不安かを3つまで聞いた。

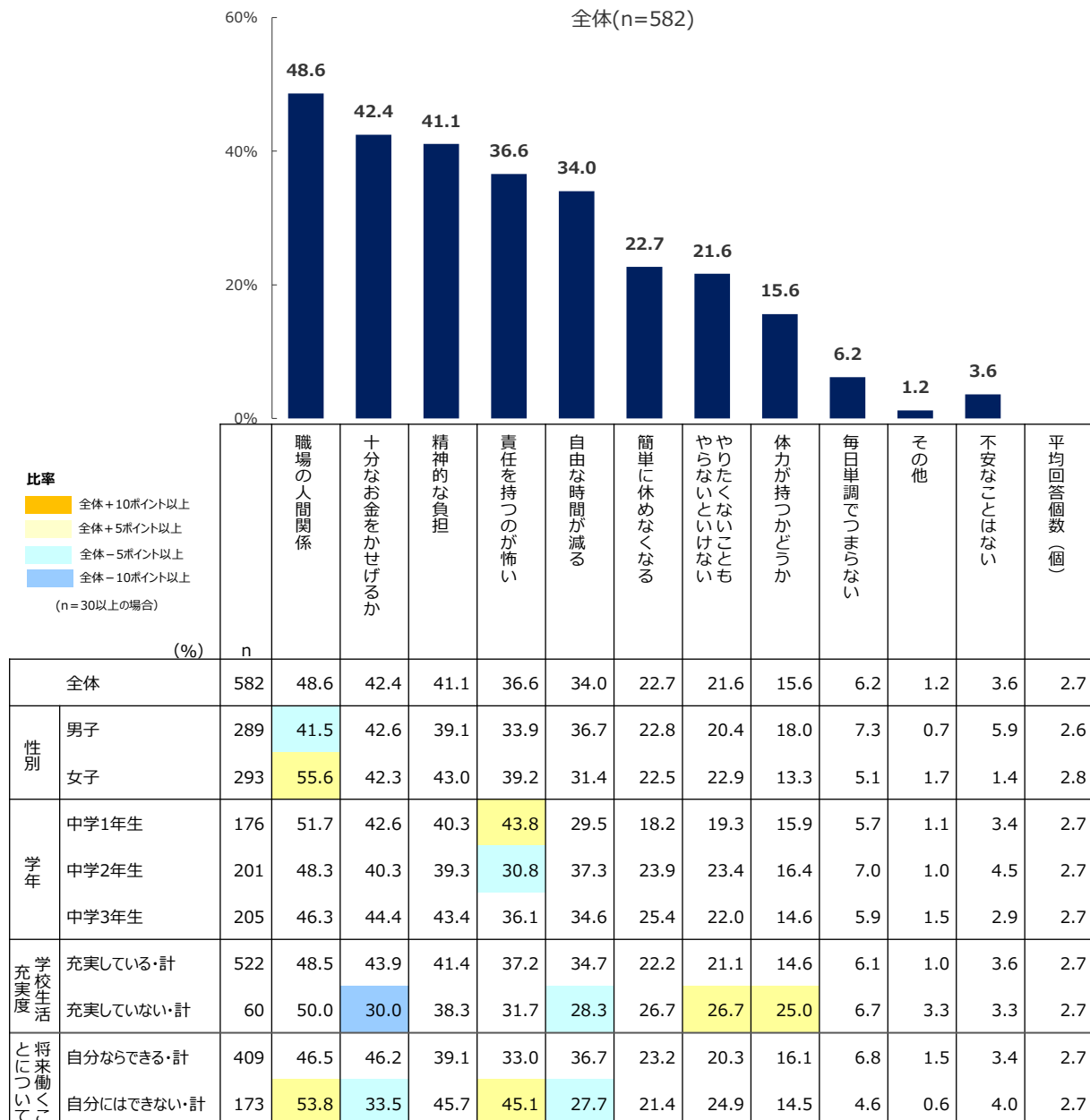
全体で最も多かったのは、「職場の人間関係」で48.6%だった。次いで、「十分なお金をかせげるか」42.4%、「精神的な負担」41.1%、「責任を持つのが怖い」36.6%、「自由な時間が減る」34.0%となった。

性別でみると、特に女子は「職場の人間関係」に不安を抱いている割合が高く、55.6%に上っていた。

「1 学校生活の充実度」との関係を見ると、「充実していない」と回答した者では、「充実している」と回答した者より、「十分なお金をかせげるか」という不安が10ポイント以上低くなっていた。

「6 将来働くことは『自分ならできる』と思うか」との関係を見ると、「自分にはできない・計」と回答した者では、「職場の人間関係」「責任を持つのが怖い」「精神的な負担」という不安が、「自分ならできる・計」と回答した者より高くなっているのが特徴的である（図11）。

【図11】 将来働くようになったら不安なこと（複数回答）



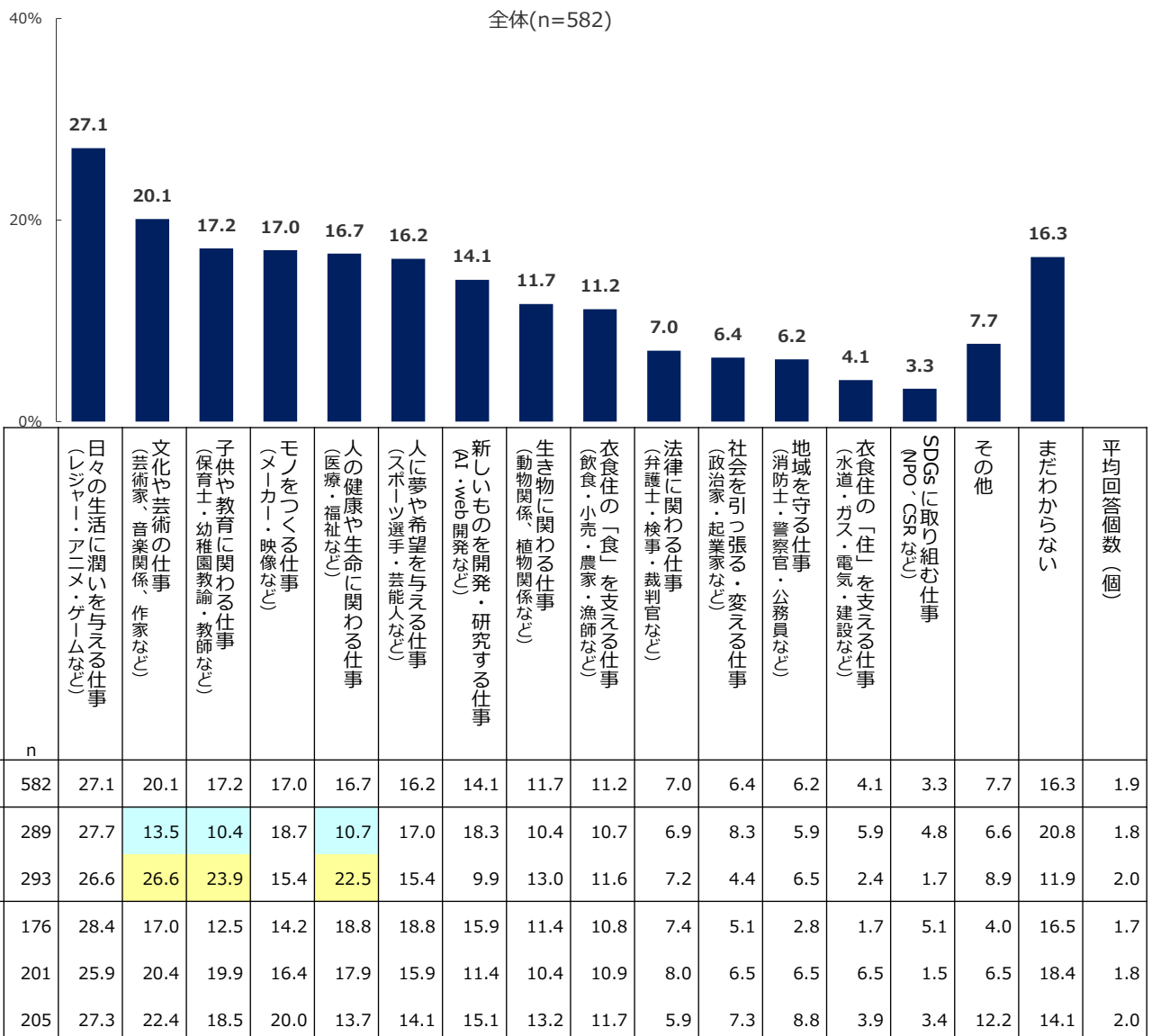
# 将来やりたい仕事

中学生に、将来どのような仕事をしたいかを聞いた。

全体では、「日々の生活に潤いを与える仕事」が最も多く27.1%、次いで「文化や芸術の仕事」20.1%、「子供や教育に携わる仕事」17.2%、「モノをつくる仕事」17.0%、「人の健康や生活に関わる仕事」16.7%、「人に夢や希望を与える仕事」16.2%と続いている。一方、「まだわからない」との回答は16.3%となった。

性別でみると、女子は「文化や芸術の仕事」26.6%、「子供や教育に関わる仕事」23.9%、「人の健康や生命に関わる仕事」22.5%の回答割合が高く、それぞれ男子に約2倍の差をつけている（図12）。

【図12】 将来やりたい仕事（複数回答）



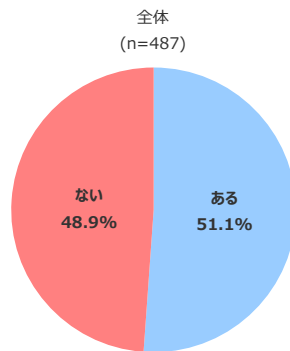
## 「将来やりたい仕事」をしている人と実際に話をしたことがあるか

「12 将来やりたい仕事」で「まだわからない」以外を回答した中学生に、その仕事に実際に従事している人と話をしたことがあるかを聞いた。「ある」と回答した者は51.1%だった（図13.1）。

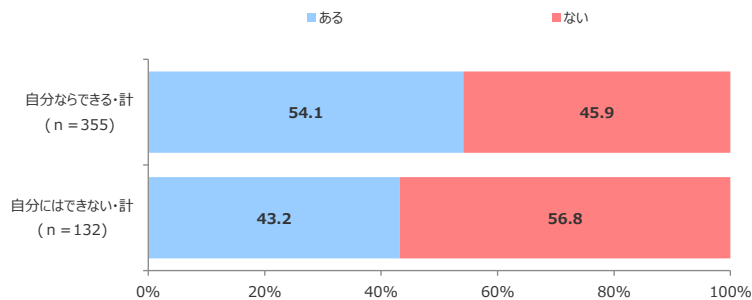
「6 将来働くことは『自分ならできる』と思うか」との関係を見た。その仕事に実際に従事している人と話をしたことが「ある」という回答は、「自分ならできる・計」と回答した者では54.1%、「自分にはできない・計」と回答した者では43.2%となり、「自分ならできる・計」の回答者の方が10.9ポイント高くなっていた（図13.2）。

実際に話をしたことで、働くことへの不安が少し軽減されているのかもしれない。

【図13.1】「将来やりたい仕事」をしている人と実際に話をしたことがあるか



【図13.2】「将来やりたい仕事」をしている人と実際に話をしたことがあるか：将来働くことは「自分ならできる」と思うか別



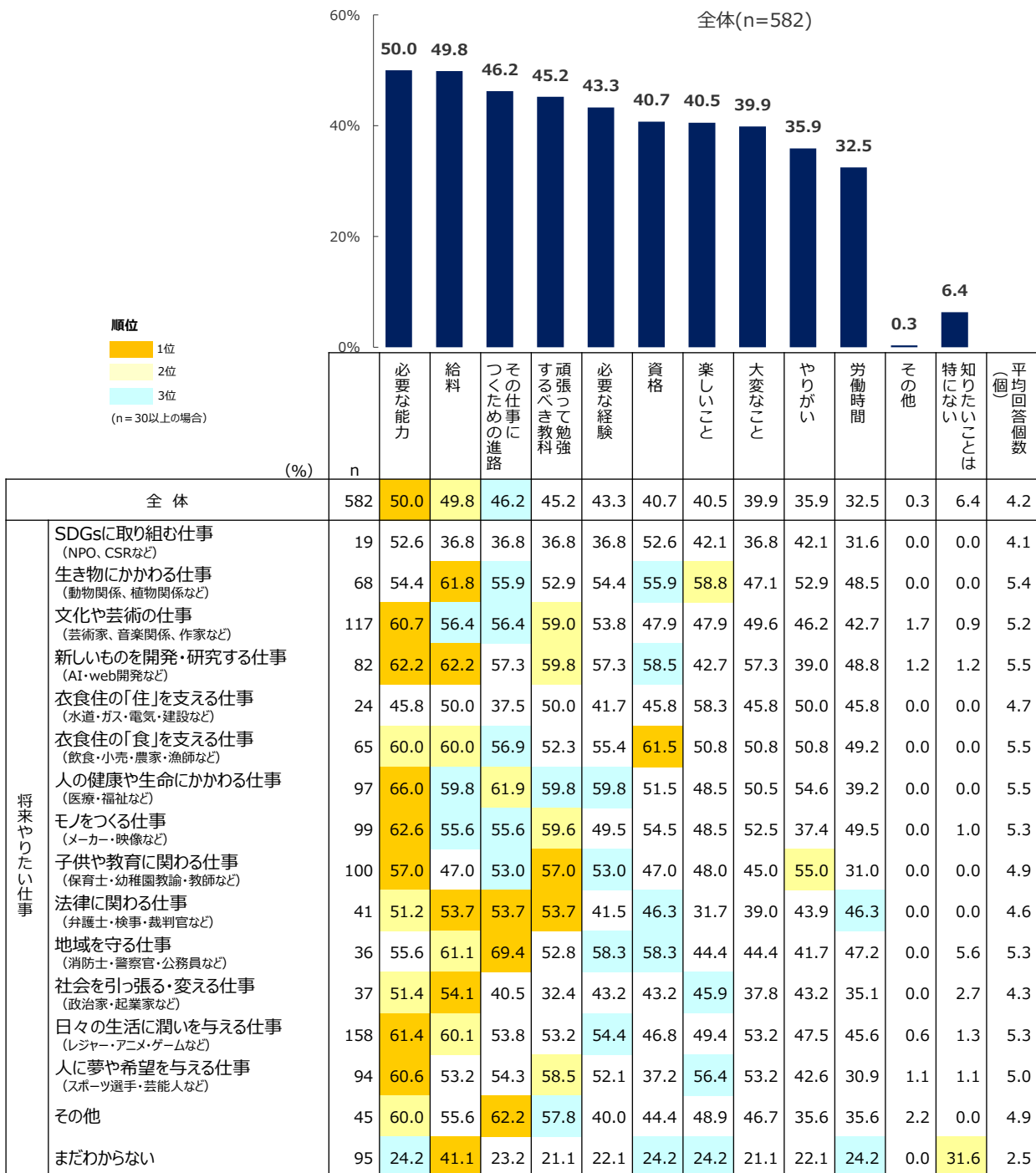


# 将来やりたい仕事について知りたいこと

中学生に、将来やりたい仕事について、どのようなことが知りたいかを聞いた。全体では、上位から「必要な能力」50.0%、「給料」49.8%、「その仕事につくための進路」46.2%、「頑張るべき教科」45.2%、「必要な経験」43.3%の順となった。

「12 将来やりたい仕事」との関係を見ると、多くの仕事で「必要な能力」「給料」が1位または2位に挙がっており、中学生の興味関心が集中していることがうかがえる。また、「その仕事につくための進路」や「頑張るべき教科」なども、仕事によって上位に挙がっており、今の学校生活とリンクさせて、将来について考える機会も必要だと思われる（図14）。

【図14】 将来やりたい仕事について知りたいこと（複数回答）



# 「キャリアパスポート」の認知度

中学生に「キャリアパスポート」という言葉を知っているかを聞いた。全体では、78.4%が「知っている」と回答した（図15.1）。

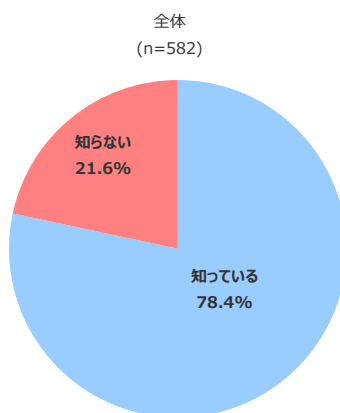
性別でみると、女子は「知っている」が81.6%と、男子よりも若干認知度が高かった（図15.2）。

学年別でみると、中学2年生の認知度が最も高くなった（図15.3）。

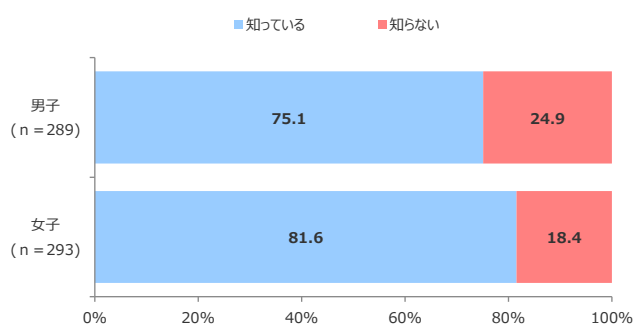
## キャリアパスポートとは

児童生徒が、小学校から高等学校までのキャリア教育に関わる諸活動について、特別活動の学級活動及びホームルーム活動を中心として、各教科等と往還し、自らの学習状況やキャリア形成を見通したり振り返ったりしながら、自身の変容や成長を自己評価できるよう工夫されたポートフォリオ（独立行政法人教職員支援機構HPより）

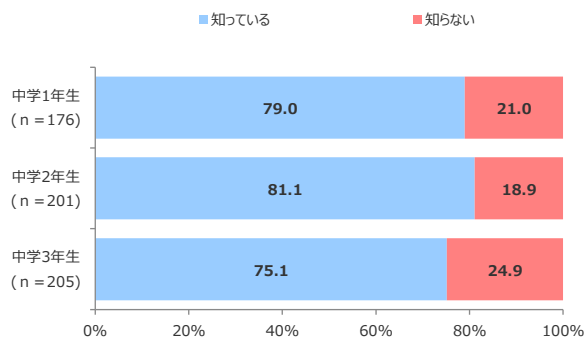
【図15.1】「キャリアパスポート」の認知度



【図15.2】「キャリアパスポート」の認知度：性別



【図15.3】「キャリアパスポート」の認知度：学年別



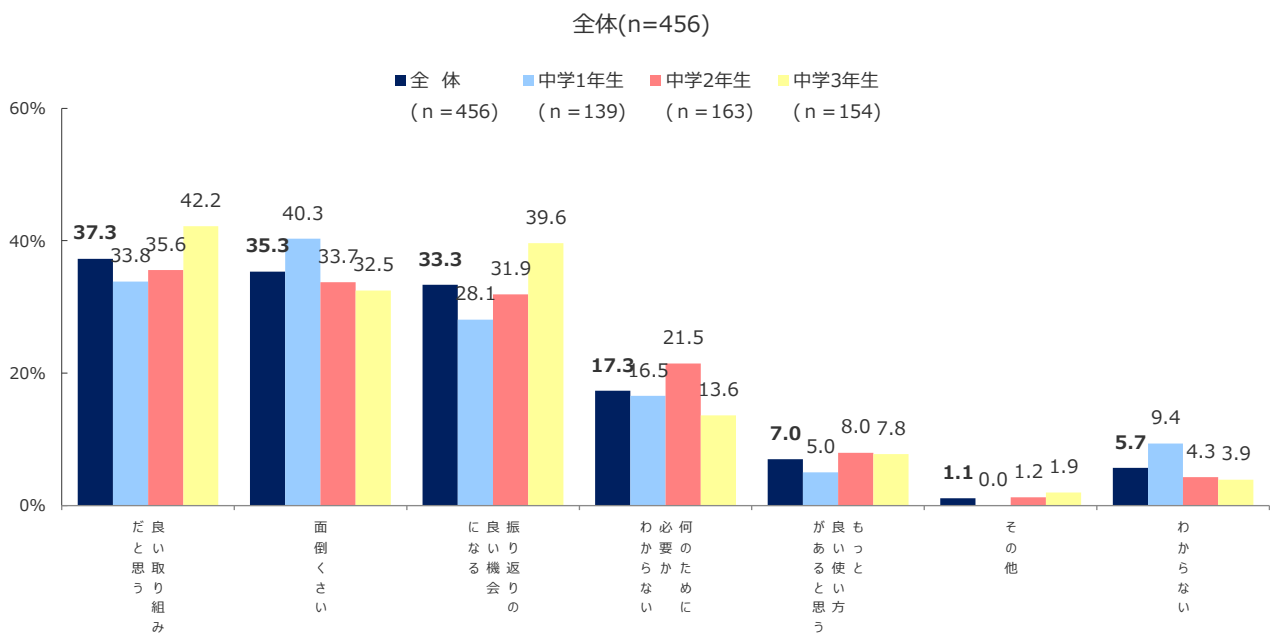
# 「キャリアパスポート」をどう思うか

「15 『キャリアパスポート』の認知度」において、「キャリアパスポート」という言葉を「知っている」と回答した中学生に、キャリアパスポートについてどう思うかを聞いた。全体では、上位から「良い取り組みだと思う」37.3%、「面倒くさい」35.3%、「振り返りの良い機会になる」33.3%となった。

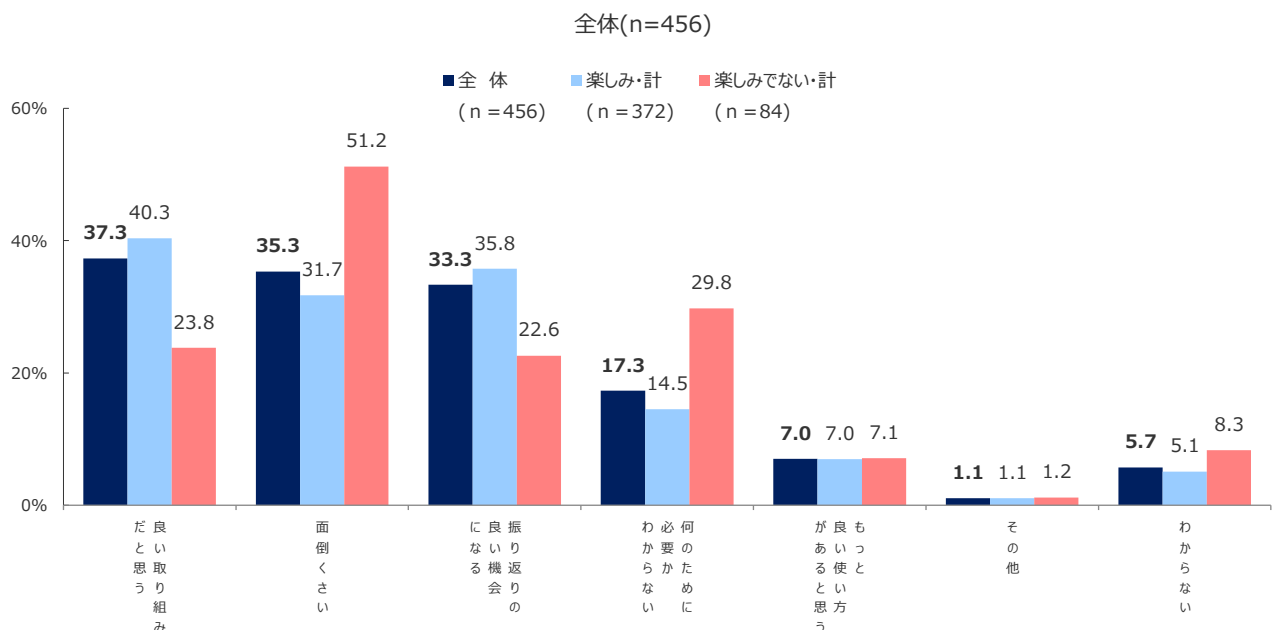
学年別でみると、中学3年生では、「良い取り組みだと思う」「振り返りの良い機会になる」の回答割合が他の学年よりも高くなっている（図16.1）。

また、「4 将来働くことは『楽しみ』か」との関係を見た。将来働くことを「楽しみ・計」と回答した者においては、「楽しみでない・計」と回答した者より、キャリアパスポートに対してポジティブな印象を持っている。具体的には、「楽しみ・計」と回答した者はキャリアパスポートについて「良い取り組みだと思う」が40.3%、「振り返りの良い機会になる」が35.8%で、「楽しみでない・計」と回答した者よりそれぞれ16.5ポイント、13.2ポイント高くなっていた（図16.2）。

【図16.1】キャリアパスポートをどう思うか：学年別



【図16.2】キャリアパスポートをどう思うか：将来働くことを「楽しみ」に思うか別



# 将来役に立つと思う教科

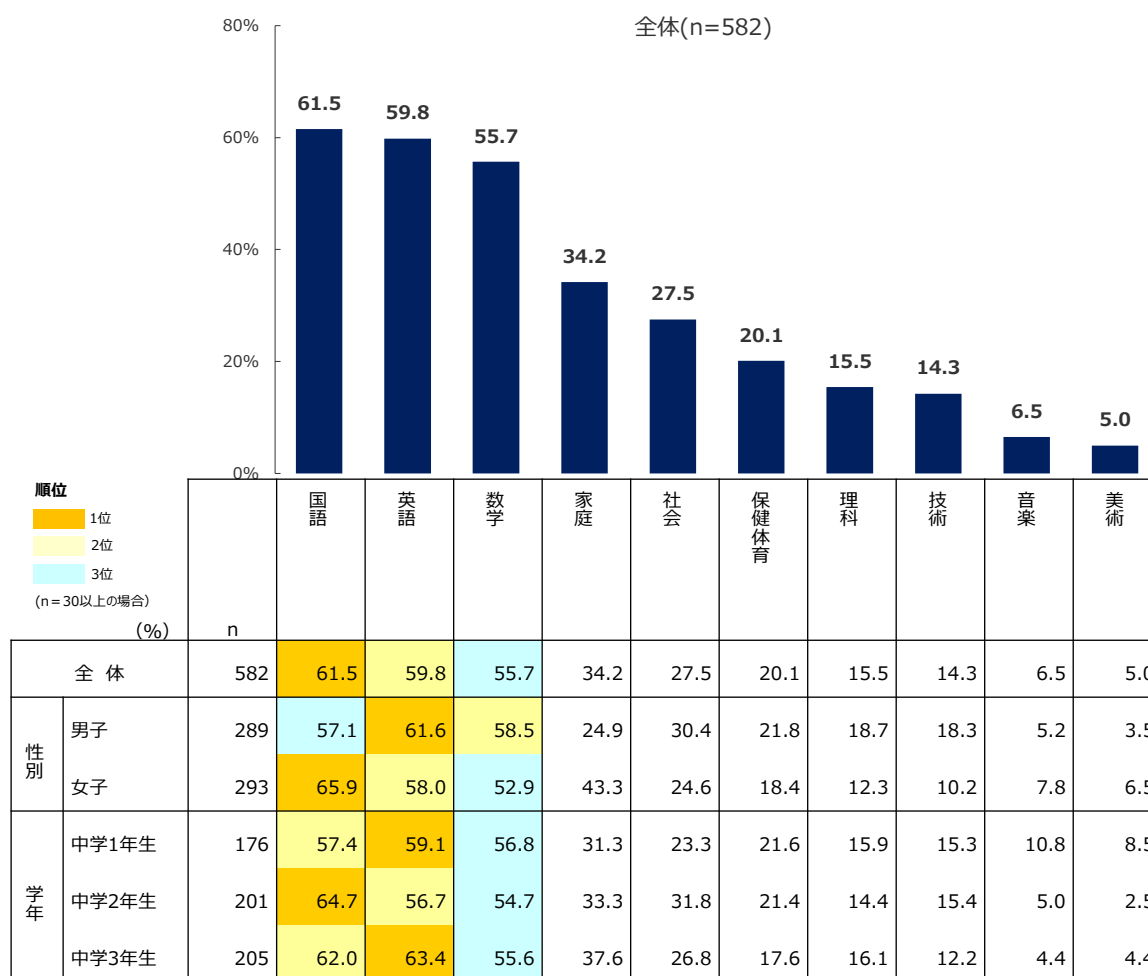
中学生に、学校で学んでいる教科のうち、将来役に立つと思う教科の上位3つを聞いた。上位から、「国語」61.5%、「英語」59.8%、「数学」55.7%となっており、主要3教科に回答が集まった。以降は、「家庭」34.2%、「社会」27.5%、「保健体育」20.1%と続いていく（図17）。

これを性別で見ると、男子は「英語」が最も多く61.6%、女子は「国語」が65.9%で最も多くなった。

また、学年で見ると、中学校1年生では「英語（59.1%）」、中学校2年生では「国語（64.7%）」、中学校3年生では「英語（63.4%）」が最も多くなっていた。

「国語」や「英語」は、言語というコミュニケーションの基礎であることから、多くの中学生がその重要性を認識していることがうかがえる。

【図17】 将来役に立つと思う教科（複数回答）



# 将来の仕事につながる習い事

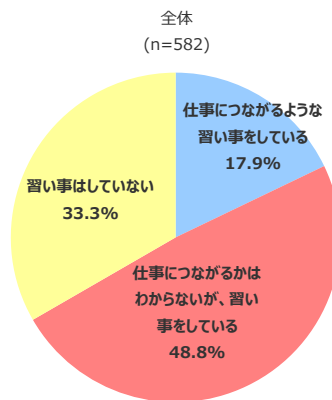
中学生に、現在、将来の仕事につながるような習い事をしているかを聞いた。「仕事につながるような習い事をしていいる」と回答したものは17.9%で、「仕事につながるかはわからないが、習い事をしている」が最多で48.8%だった。「習い事はしていない」は33.3%だった（図18.1）。

「仕事につながるような習い事をしていいる」「仕事につながるかはわからないが、習い事をしていいる」と回答した者に、具体的な習い事を聞くと「学習塾・通信教育」が最多で61.9%に上った。

性別でみると、女子は「音楽」を習っている者が、男子よりも大幅に高くなった。

学年別でみると、「学習塾・通信教育」は学年が上がるにつれ高くなっており、受験を視野に入れていることがうかがえる（図18.2）。

【図18.1】 将来の仕事につながるような習い事の有無



【図18.2】 将来の仕事につながるような習い事（複数回答）

